

論点深堀ゼミ



<このテキストの使い方>

日商簿記1級の工業簿記・原価計算は試験の傾向に変化はあるものの、昭和37年の原価計算基準をベースに、岡本清先生の名著「原価計算（初版1973年）」を参考に作成されている傾向が強いという噂があります。また市販テキストも大部分が岡本先生の著書からを参考にしているケースが多いとのこと。

何が言いたいのか???

弥生カレッジが2013年から収録している動画の内容は「今でも古臭くない」ということです。ただ有料講座で使用するには、もう少し補足が必要と感じています。

というわけで、無料動画の前後をつなぐものが必要と考えました。

前半10分（ガイダンス）→無料動画（旧収録分）→質問タイム（本試験の傾向など）
このような形で、新旧おりましたハイブリッド動画(笑)にしたいと思います。

であれば、当然テキストも必要でしょう。旧動画のレジюме（約200ページはそのままにして）前後を挟む形でCMCオリジナルテキストを作成します。
このテキストは無料でダウンロードできるようにします（画期的）！

ただ、「プリンタがないので印刷物が欲しい」という声も良く聞きます。残念ながら2020年6月完成予定なので、完成時にはオンラインショップからご注文下さい。1,500円+送料で販売したいと考えています。

日商1級にも全経上級にも対応するテキストとしては破格値だと思います。

あくまでも動画連動型テキストになります。その点だけご了承ください。

なお、工業簿記・原価計算市販テキストのおすすめはTAC出版の「簿記の教科書」です。ご参考まで・・・

令和元年12月10日
弥生カレッジCMC 横山隆志

<注意事項>

無料講座のレジюмеのページ数は、各単元P1から始まっています。今回は、最初から通しでページ番号をふっておりますので、動画の中でのページ数は各単元の最初を1ページと読み替えてください。

目次

1. CVP分析

直接原価計算は利益管理に役立つ→でも財務諸表は全部原価計算で利益計算→ゆえに固定費調整使えば利益管理にも財務報告にも使える！



固定費調整知ってれば、「君はすごいね」とほめられるのか？

いやいや！
「頭でっかち君」ののあだ名がついて人気出るかもしれないけどね

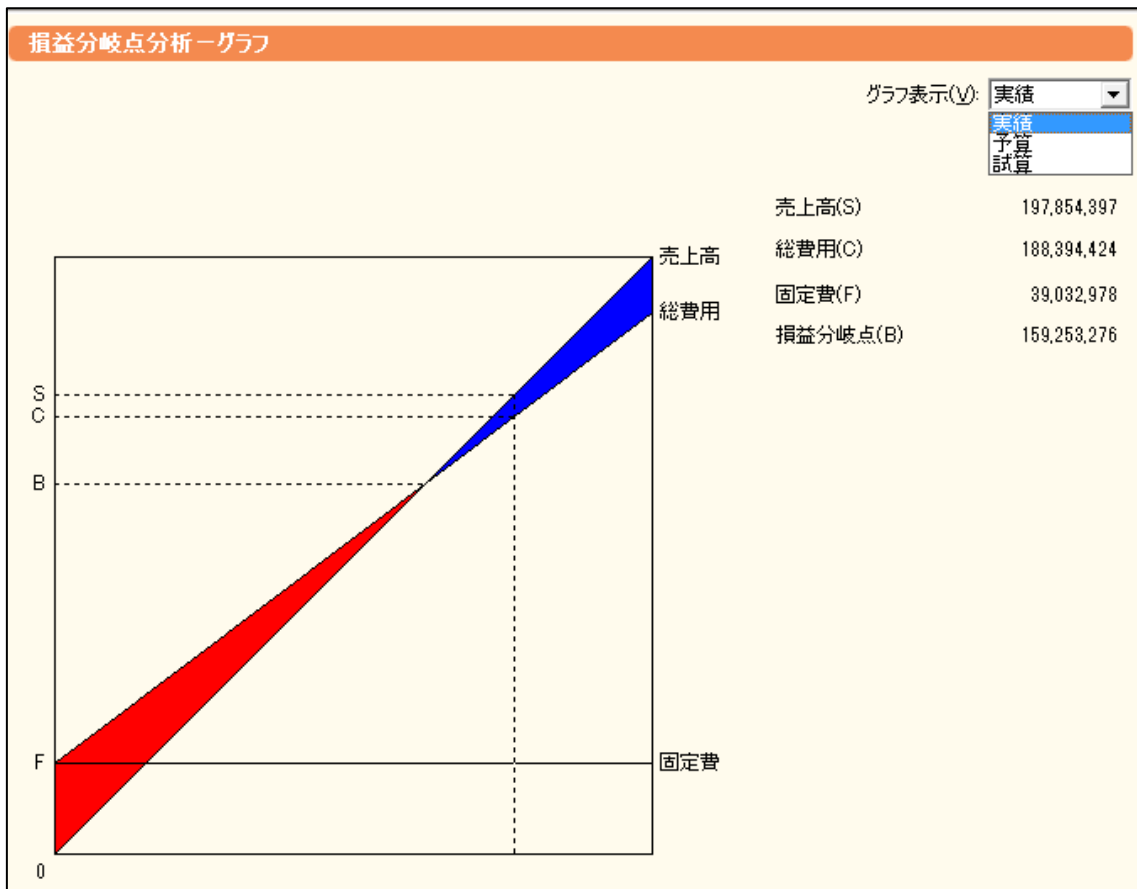


本当か？

弥生会計で確認してみよう！

残高試算表(月次・期間)																			
部門(B): 事業所(合計)																			
期間(O)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	決	全期間(E)	税抜/税込切替(Z)	税抜	単位(Y)	円	
貸借対照表							損益計算書							製造原価報告書					
1	勘定科目	前期繰越	期間借方	期間貸方	当期残高	対売上比(%)													
日	売上高																		
	売上高	0	0	198,150,510	198,150,510	100.00													
	売上高合計	0	0	198,150,510	198,150,510	100.00													
日	売上原価																		
	期首商品棚卸高	0	0	0	0	0.00													
	仕入高 [1]	0	117,355,630	0	117,355,630	59.23													
	当期商品仕入高	0	117,355,630	0	117,355,630	59.23													
	合計	0	117,355,630	0	117,355,630	59.23													
	期末商品棚卸高	0	0	0	0	0.00													
	商品売上原価	0	117,355,630	0	117,355,630	59.23													
	期首製品棚卸高	0	0	0	0	0.00													
	当期製品製造原価	0	32,419,565	0	32,419,565	16.36													
	合計	0	32,419,565	0	32,419,565	16.36													
	期末製品棚卸高	0	0	0	0	0.00													
	製品売上原価	0	32,419,565	0	32,419,565	16.36													
	売上原価	0	149,775,195	0	149,775,195	75.59													
	売上総利益金額	0		48,375,315	48,375,315	24.41													
日	販売管理費																		
	役員報酬	0	6,400,000	0	6,400,000	3.23													
	給料手当	0	8,534,900	0	8,534,900	4.31													
	賞与	0	3,245,000	0	3,245,000	1.64													

損益分岐点分析															
部門(B): 事業所(合計)															
期間(O)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	決算仕訳(V): 含む	集計	単位(Y): 円
項目		実績	予算	差額	試算	差額									
売上高	S	197,854,397	197,854,397	0	197,854,397	0									
総費用	C	188,394,424	188,321,166	73,258	188,394,424	0									
固定費	F	39,032,978	38,959,720	73,258	39,032,978	0									
変動費	V=C-F	149,361,446	149,361,446	0	149,361,446	0									
利益	P=S-C	9,459,973	9,533,231	-73,258	9,459,973	0									
限界利益	MP=S-V	48,492,951	48,492,951	0	48,492,951	0									
損益分岐点	B	159,253,276	158,954,386	298,890	159,253,276	0									
変動費率	V/S	0.7549	0.7549	0.0000	0.7549	0.0000									
安全余裕率	1-B/S	0.1951	0.1966	-0.0015	0.1951	0.0000									



弥生会計ってスゴイな！
 これを聞いてよかった。
 顔だけでなく、頭までデカイと言わ
 れるところだった



<では、まじめな話>

原価計算の書籍を色々読みましたが、上級原価計算の著者である清水孝氏はこのように述べています。「そもそも実際には外部報告用の全部原価計算と管理会計用の直接原価計算は別立のシステムとして走っているのが一般的であるから、こうした調整計算にはあまり意味があるものではない。あくまでも全部原価計算と直接原価計算による利益計算の違いがなぜ、どのように、いくら異なっているかを確認することについて意味があると考えている。」

「実務に活かすために原価計算の本質を学ぼう」

「上司から、君はすごいね、というために日商1級の原価計算を学ぼう」

このようなキャッチコピーで日商1級の学習を「実務に活かせる」と促す学校が多いが、私は疑問である。実務はITの進展によりどんどん進化している。理論を学ぶのは良いが「頭でっかちは考え物」である（会社では最も敬遠される人種になる可能性がある）。

あくまでも「日商1級に通るためにはどのように学習すればいいか?」「実務ではどのように行われているのか?」

深堀ゼミでは、この目標に向かって進んでいきたいと思います。

深堀＝「はやりの本質追及」ではありません。

日商簿記1級の工業簿記原価計算はほとんどのテキスト・講座は材料費からはじまります。自身の学習経験からは、2級で学んだ論点の復習から入れたので、「入りやすかった」のは事実ですが、正直簿記最高峰の資格に対するワクワク感はあまり感じられませんでした。

そこで、弥生カレッジの日商1級講座では、思い切って管理会計から入ることにします。日商1級ではじめて学ぶ意思決定会計！ワクワクすること間違いなし（のはず）。

深堀&ユウカと一緒に楽しく学びましょう！

ただ、意思決定会計の学習のためには「CVP分析」と「直接原価計算」の知識が必要です。では、CVP分析から参りましょう！

<今日のガイダンス>

①レジュメ No は 14 から始まっている

②ページ番号は？

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 工原 No.14【CVP分析】

収録日：平成 25 年 9 月 3 日

【出題実績】

日商簿記 1 級 99 回、105 回

全経簿記上級 159 回、162 回、164 回、168 回、170 回

	検定簿記講義	サク	スッキリ	教科書
ページ数	6	17	17	
配合差異と歩留差異	◎	◎	◎	
加重平均標準価格	◎	×	△	
労働能率差異と歩留差異	△	◎	◎	
人員構成差異	×	×	×	

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い
（「弱い」は「ない」を含みます）

●他の箇所の説明又は例題あり

日商 1 級では、ほとんど問われませんが、全経上級では超頻出です。

最小二乗法はイメージでつかんでおきましょう（数学や統計学の学習ではないので、深く考えない）

CVP分析は、考え方自体は非常に簡単です（学園祭の焼きそばイメージ）。
直接原価計算のP/Lを作成すれば、利益計画に即役立つことが理解できます。

企画部長「次のCMは「早瀬あるか」を使おう。広告費はいくらかかる？」

企画課長「スポット 10 本をあわせると 10 億くらいです。」

企画部長「では、真中由紀子も使おう」

企画課長「合計で 11 億です。」

企画部長「他の固定費は」

企画課長「合計 4 億です」

企画部長「製造部長、標準原単価はいくらだ」

製造部長「300 円です」

企画部長「管理部長、他の変動費は」

管理部長「1 本あたり 100 円です」

企画部長「営業部長、いくら卸単価なら勝負になる？」

営業部長「はい、ライバル社のキャンペーン動向を考えると 900 円が限界かと」

企画部長「管理部長、何本売ればトントンだ？」

では、計算してみましょう

固定費の合計は 1,500,000,000 円

1 本あたりの儲け（貢献利益）は 500 円

という事は

3,000,000 本

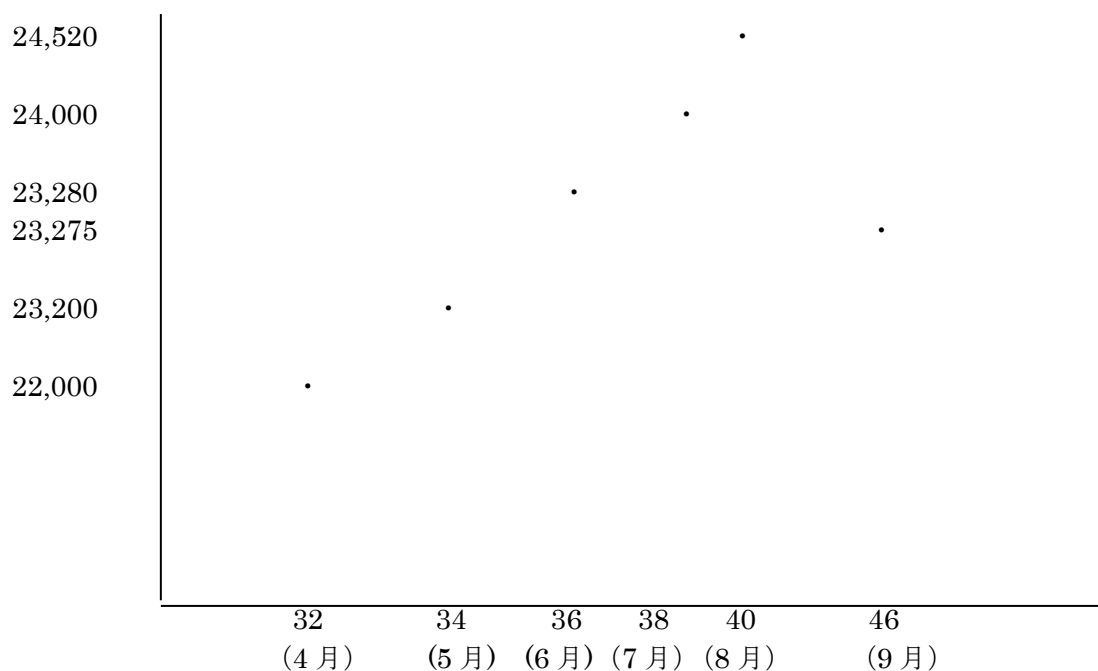
これを方程式にすると

本数を X とする

$$900X - 400X - 1,500,000,000 = 0$$

$$500X = 1,500,000,000$$

$$X = 3,000,000$$



※当社の平均操業度は 36 個であり、前後 20% を正常操業権とみなす
 (正常操業権は 28.8~43.2 です。従って 46 個の生産は統計的には除外する必要があります)

高低点法

高い点と低い点を結び、簡単に傾き（変動費）を求める

最少二乗法

すべての点を意識して変動費を計算する

数学の勉強ではない→でも覚えやすく考えないと→両辺に同じものかければ結果は同じ

4 月は $(22,000 = 32a + b)$ で表すことができる？ (a=変動費 b=固定費)

「変動費 a を電気代と考えるとわかりやすい」かも

「固定費 b を工場家賃と考えるとわかりやすい」かも

製造原価合計 $22,000 = \text{電気代} \times 32 \text{ 個} + \text{工場家賃}$

これを各月毎に計算して合計すると、a と b は純額に近くなります

でも、変数 2 つに式が 1 つでは解けない

では無理やり式を 2 つにしよう

<例> $22,000 = 32a + b$ の両辺に 32 をかけてみよう

これも合計する

すると、式が 2 つになる

連立方程式になる

私（講師：横山）は数学者ではないので、このように解き方を考えました
 数学的には偏微分という事らしいです。

<例題> 税引後資本利益率

P 4

「税引後資本利益率 10%の時の損益分岐点を求めよ」ときたら
まずは、税引前利益（額）を算出し、そこからCVP分析を実施する

税引後目標利益率 10% 使用総資本額 120,000 円 法人税率 40%の時の

税引前利益を X とする

税引前利益	X
法人税等	0. 4 X
<hr/>	
税引後利益	0. 6 X

税引後利益 = 120,000 円 × 10% = 12,000 円

$$\therefore 0. 6 X = 12, 000$$

$$X = 20, 000$$

経営レバレッジとは？（全経用）

P 5

（2019 現在では日商 1 級でも出題されています）

経営レバレッジ：（貢献利益／営業利益） 貢献利益が営業利益の何倍あるかを示す指標

貢献利益－固定費＝営業利益 ∴ 固定費大きいほど経営レバレッジ大きい

営業利益増加額＝増加前営業利益×経営レバレッジ×売上高増加率（全経頻出）

< A社 >		40%UP	→	40%Down	→
売上高	100,000				
変動費	20,000				
貢献利益	80,000				
固定費	70,000				
営業利益	10,000				

経営レバレッジ＝貢献利益÷営業利益＝80,000÷10,000＝8

売上高 40%増加した時に、営業利益はどれだけ増えますか？

<速算式>

損益分岐点は？

安全余裕率は？

< B社 >		40%UP	→	40%Down	→
売上高	100,000				
変動費	80,000				
貢献利益	20,000				
固定費	10,000				
営業利益	10,000				

経営レバレッジ＝貢献利益÷営業利益＝20,000÷10,000＝2

売上高 40%増加した時に、営業利益はどれだけ増えますか？

<速算式>

損益分岐点は？

安全余裕率は？

安全余裕率と経営レバレッジの関係を考えてみよう

売上が40%増えると、変動費も40%増えるので、貢献利益も40%増える
固定費はかわらないのだから、貢献利益の伸びが営業利益の伸びになる
(この考え方をしっかり押さえてほしい)

という事は、貢献利益率が高い会社の方が、同じ売上なら貢献利益額も大きい

という事は、変動費率が少ない(逆にいうと固定比率が高い会社の方が)売上増減の営業利益に与えるインパクトが大きい。

逆にいうと、不況の時はあぶない
要するに経営レバレッジとは、ある企業の固定費への依存度をあらわしているのです

上記のA・B社はともに売上高も営業利益も同じです。
でもA社の方が固定費への依存度が高いので、景気変動などによる影響を受けやすいといえるでしょう。
経営レバレッジが高いほど固定費への依存度が高く、景気変動の影響を受けやすいといえます。

という事は、どちらが安全性が高い(ローリスク)でしょうか

ダウンロード講座では例題(15分)と全経170回の原価計算問題2を実施します(15分)

全経170回の件は質問タイムで説明します

<直接原価計算とCVP分析を関連させた問題>

1. 次の資料により直接原価計算（直接費＝変動費のみで製造原価を計算する方法）方式によるP/Lを作成しなさい。

イカ焼きお土産セット

売価@1,600円

変動費（小麦粉・イカ）	540,000円	}	製造原価
変動加工費（電気代等）	738,000円		
固定加工費（リース料）	414,000円		



営業マンの歩合給(変動費)	1個売るごとに@154円	}	販売管理費
一般管理費（事務所家賃）	204,000円		
固定販売費（営業マン固定給）	126,000円		

今月は1,800個生産（月初月末の仕掛品・月初の製品在庫なし）して、1,500個販売

2. 向いに「ちよぼ焼」の店ができたため、来月は1,400個の販売に減少しそうである。現在の営業利益を確保するには、固定費総額をいくらしなければならないか？営業マンの給料を下げるのか？リース会社に交渉するのか？悩みます。



たこ焼きとお好み焼きを
足して2で割った感じ
ポンズ味がウマイです

I	売上高	()
II	変動売上原価	()
	製造マージン	()
III	変動販売費	()
	限界利益	()
IV	固定費	()
	営業利益	()

現在の営業利益を確保する為の固定費総額（ ）

<解答>

I	売上高	(2,400,000)
II	変動売上原価	(<u>1,065,000</u>)
	製造マージン	(1,335,000)
III	変動販売費	(<u>231,000</u>)
	限界利益	(1,104,000)
IV	固定費	(<u>744,000</u>)
	営業利益	(360,000)

現在の営業利益を確保する為の固定費総額 (670,400)

売上高が変化する→変動費も変化する→限界(貢献)利益がわかる→固定費引くと営業利益

太字が各 4 点

<応用問題> (1,500 個販売時)

<損益分岐点を求めなさい(円未満切捨)>

<損益分岐点比率を求めなさい(小数点第 2 位を四捨五入)>

<安全余裕率を求めなさい(小数点第 2 位を四捨五入)>

<直接原価計算の営業利益を利用して全部原価計算の営業利益を計算しなさい
全直末首、加減して(うわさの全直末首です)>

上記回答

損益分岐点=1,617,391、損益分岐点比率=67.4%、安全余裕率=32.6%

全部原価計算の営業利益=

直接原価計算の営業利益
+ 月末棚卸資産に含まれる固定製造間接費
- 月初棚卸資産に含まれる固定製造間接費

製品	
固定製造間接費 414,000 円	販売数 1,500 個
	在庫数 300 個

月末棚卸資産に含まれる固定製造間接=414,000×300÷1,800=69,000

∴ 全部原価計算の営業利益=360,000+69,000=429,000 円

全経上級 170 回原価計算<類題>

<問題> CMC 鋼材の当期の損益計算書は下記のとおりである。資料にもとづいて問 1 と問 2 に答えなさい。

本年度損益計算書 (単位: 円)	
売上高	3,400,000
原価・販管費	
変動費	20,400,000
固定費	<u>5,100,000</u>
営業利益	<u>8,500,000</u>

<資料>

次年度以降しばらくは本年度対比 115%の販売量が見込まれるため、手作業の一部を IOT によるオートメーション化するための F A 関連の設備投資を検討している。この投資により単位当たり変動費は 10%減少するが、固定費が年 799,500 円増加する予定である。製品の売価は変わらないものとする。

問 1<資料 1>に基づき①から④に答えなさい。

- ①本年度の損益分岐点売上高を答えなさい。
- ②本年度の安全余裕率を答えなさい。
- ③本年度の経営レバレッジ係数を答えなさい。
- ④売上高が 15%増加すると、営業利益はいくらになるか、経営レバレッジ係数を利用して答えなさい。

問 2<資料 1>に<資料 2>を加えて、①と②に答えなさい。

- ①次年度の損益分岐点比率を答えなさい。
- ②次年度の不況に対する耐性は、本年度と比べて強まるか弱まるか、正しいものを○で囲み、根拠を述べなさい。

※問 1, 2 とも、計算過程で端数が生じる場合は、小数点以下第 3 位を四捨五入する。

<解答>

問 1

①	円
②	%
③	
④	円

④の計算プロセス

問 2 ①損益分岐点比率

%

② (強まる ・ 弱まる)

根拠:

<解答>

問1

①	12,750,000 円
②	62.5%
③	1.6
④	10,540,000 円

④の計算プロセス $8,500,000 \times (1 + 0.15 \times 1.6) = 10,540,000$

問2 ①損益分岐点比率

32.8%

② (強まる) ・ (弱まる)

根拠：次年度の経営レバレッジは約 1.49 となり、本年度の経営レバレッジ 1.6 より低くなり、結果として次年度の安全余裕率が高くなるからである。

<質問タイム>

?日商の出題傾向がかわってきているのですか?

		過去問ゼミでの私の感想 (直原と CVP)
135 回	CVP 分析	第 1 問・2 問 16 点 (かなり簡単) 14 点取れそう
137 回	工程別直接原価計算と全部原価計算	19 点 (読み取りやや難) 10 点くらいか
138 回	直接標準原価計算	問 1 (6 点) 4 点は簡単にとける
141 回	CVP 分析	第 1 問 (17 点) →満点いける
147 回	CVP 分析	第 2 問 (8 点) →めっちゃ簡単 8 点

③全経上級はどうですか?

		過去問ゼミでの私の感想 (直原と CVP)
173 回	セグメント別 CVP	60/85 はいけそうです
175 回	複数製品 CVP	約 70 点 60 点以上はいける!
181 回	利益計画と CVP	問題 2(問 1・問 2)25 点満点→満点いける
185 回	最適セールスマックス (LP)	第 2 問 65 点→35~45 点で良い
187 回	最適セールスマックス (制約条件 1 つ)	第 2 問 50 点→35~40 点 問 5 は埋没